

能登半島地震：七尾市の妙観院ご住職の体験談と令和6年7月の現状

団体名 ● バイヤー専門ゼミナール I

代表者名 ● バイヤーアヒム（人文学部国際文化学科・教授）

はじめに(背景・目的・目標)

妙観院(みょうかんいん)は、石川県七尾市に位置し、高野山真言宗のお寺です。西暦830年に弘法大師により開創されたといわれます。令和6年7月20日に金沢星稜(せいりょう)大学国際文化学科の専門ゼミナール3年生6人と、指導教員バイヤーと一緒に妙観院を参り、住職の北原様にインタビューしました。



写真1：北原住職インタビューの様子

また、寺の階段や柱も所々ヒビが入っていました。本堂に属する参拝者用のトイレは元々施設が別々だったものをつなげた形式なので、地震の大きな揺れでトイレが寺そのものと離れてしまいました。トイレは酷く倒壊しており、訪問時でも使用できませんでした。また、寺院に隣接している事務所でも扉が全て倒壊し、寺院の周囲にある地域の人の墓が設置されている竿石(〇〇家、と名前が書かれた長方形の石)は半分ほど倒れるなどの被害が確認されました。



写真2：令和6年1月10日の様子

活動内容

妙観院の地震発生直後の被害状況や現状、今後の課題についてお話を伺いました。ご住職の案内で実際に妙観院を見学し、建物とその周辺の被害状況や被災当時の対応、地域への支援活動について教えてくださいました。

寺院の復興状況に関して、今では修繕されている箇所も多いですが、地震発生当時のまま残されているものも多くあります。私たちが訪問した際には襖の障子紙はほぼ破けており、外付けの扉も倒れたままでした。地震により全部倒れてしまった棟(屋根の一番高いところ)は今でも所々瓦が落ちています。屋根も修繕可能ですが、10月中旬ごろまでかかるようです。お寺で保有していた仏像も数体倒れ、その中には文化財に指定されている仏像も含まれていました。その仏像は部分的に割れていましたが、文化財であるために市が指定した特定の機関のみ修繕が可能なので、今もそのままの状態でも保管されていました。



写真3：令和6年7月20日の様子



写真4：令和6年1月10日の様子



写真5：令和6年7月20日の様子

成果、結果の考察

一方で、七尾市では生活の基盤となっている商業施設や銀行、市役所などさまざまな施設に復旧作業が行われてきました。そのため電気や水道は2ヶ月ほどで回復しましたが、未だ液状化によって土地が傾いています。また、震災によって壊された家を公費解体する世帯が多いため、半壊したままの家が数多

く残っています。解体してさらに家を建てるとなると莫大な費用がかかるので、現在でもなお、多くの住民が仮設住宅や他の地域に移り住んでいるのが現状です。

震災直後、真言宗の石川の事務所として機能した妙観院には全国から多くの支援物資が届けられました。私たちが訪れたときも水や灯油などの物資がまだ残っていました。妙観院では地域の公共支援が行き届かない小さなコミュニティや支援物資をとりに行くことが困難な方に対して物資を配達・提供していました。当時、妙観院には多くの地域の方々が集まっていたそうです。妙観院は地域の人々が集まり、震災後の不安定な生活と精神の中で、心の安らぎを得られる場所となりました。これらの現状から、元の生活に戻るのに時間がかかることが分かり、多くの人からの物資や心の支援が大切だと考えられます。

今後の課題、展望

北原さんが危惧していたのは、住民の皆さんが個々の1日の生活に必死で、被災した苦しみの感情を他人に共有できていない人が多いことです。生活を取り巻くインフラ設備も大切ですが、住民の心のケアを施すことも重要です。

もし災害が発生した際、私たちは被災者を支援することができます。募金やボランティア活動といったささやかな行動から始め、これらの行動を通じて復興に貢献することが求められます。今回の地震を含め、今後起こり得る災害の復興には、私たちができることを積極的に取り組む姿勢が必要です。

妙観院の詳細

高野山真言宗小嶋山妙観院
(住職：北原久禪)

千日詣りで有名な七不思議のお寺：
七尾市山の寺寺院群

<https://noto-rennaissance.net/myoukanninn/>